

## (7) メディアとの接触状況

児童生徒質問紙調査結果より

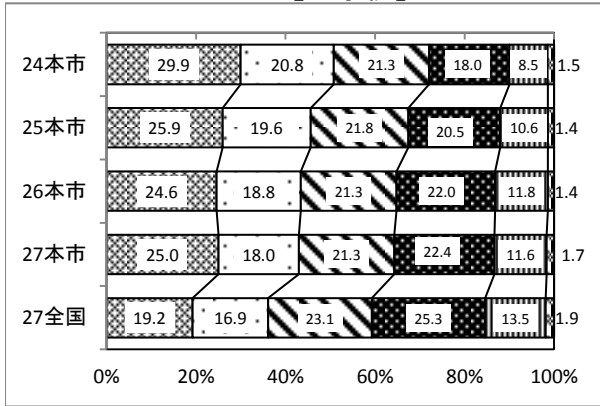
メディアとの接触時間が全国より長い傾向が続いており、特にゲームをする時間については、増加の傾向にある。また、携帯電話、スマートフォンの所持率も増加し、全国を上回っている。

1

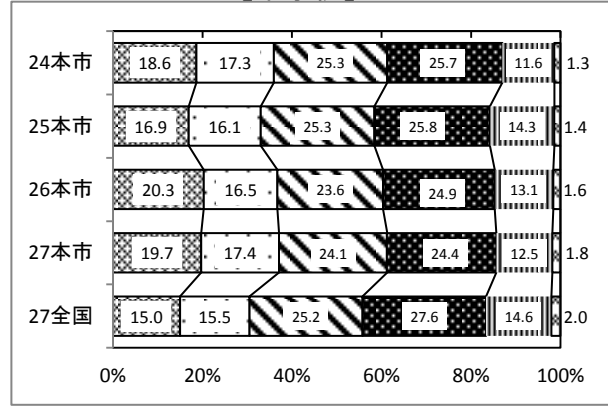
普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか(テレビゲーム除く)

4時間以上 3～4時間 2～3時間 1～2時間 1時間以内 全くしない

【小学校】



【中学校】

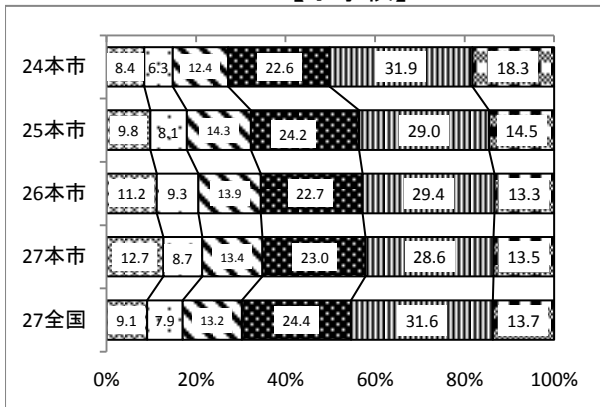


2

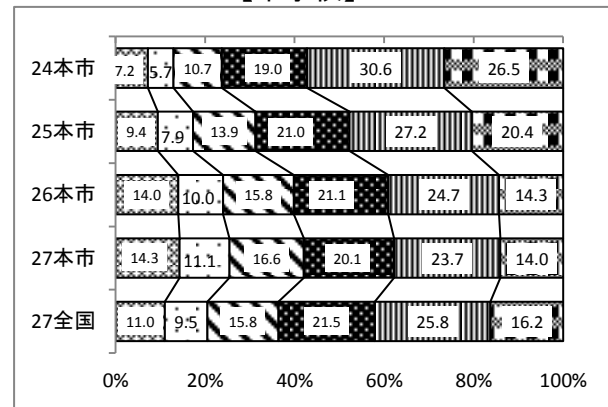
普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム含む)をしますか

4時間以上 3～4時間 2～3時間 1～2時間 1時間以内 全くしない

【小学校】



【中学校】

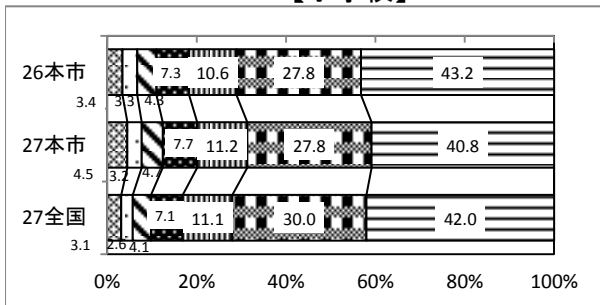


3

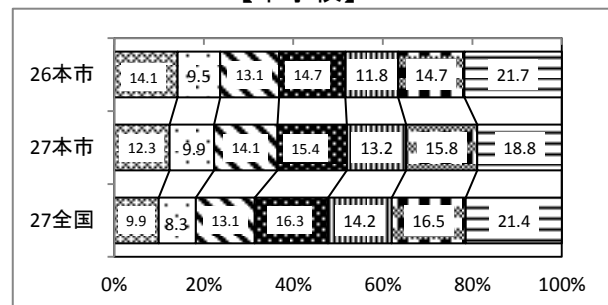
普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか(携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く)

4時間以上 3～4時間 2～3時間 1～2時間 30分～1時間 30分以内 持っていない

【小学校】



【中学校】



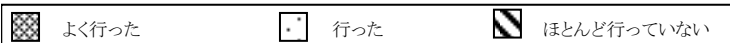
## (8) 調査結果の活用について

学校質問紙調査結果より

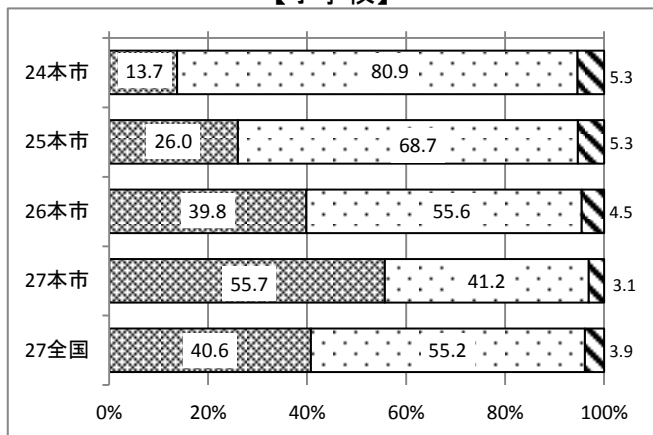
昨年度全市統一した形式による公表フォーマットを作成した結果、各学校における調査結果の分析と、学力向上に向けた取組を学校ホームページと学校便りで、保護者や地域に広げることができた。

1

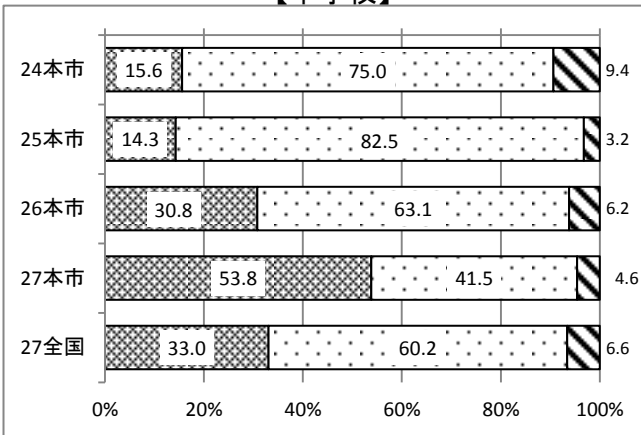
前年度の全国学力・学習状況調査の自校の結果を、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか



【小学校】

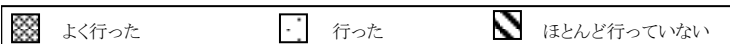


【中学校】

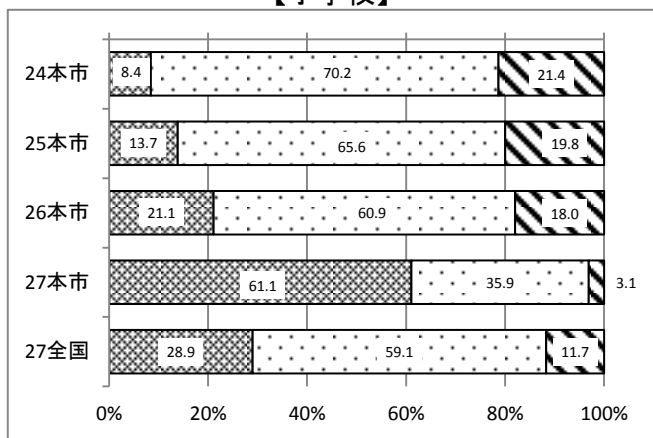


2

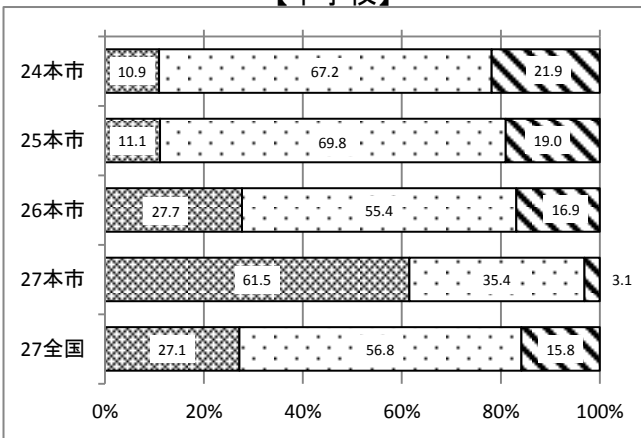
前年度の全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行いましたか(学校のホームページや学校だより等への掲載、保護者会等での説明を含む)



【小学校】

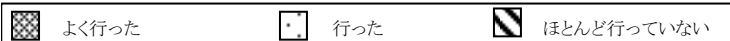


【中学校】

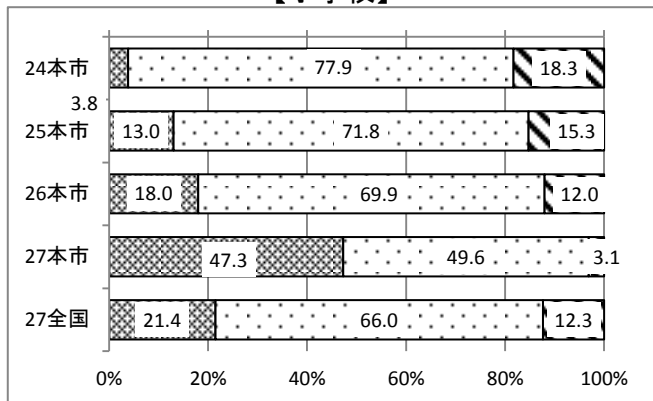


3

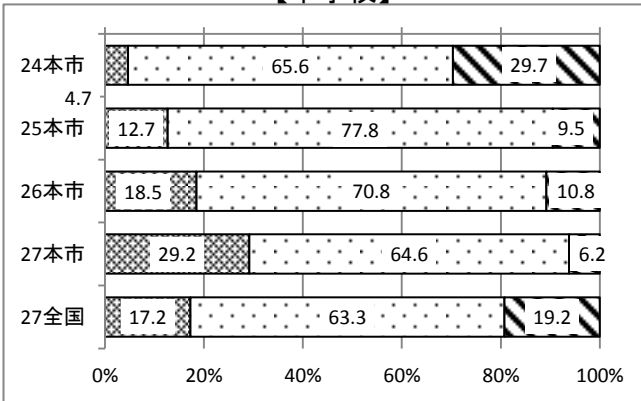
前年度の全国学力・学習状況調査や学校評価の自校の結果等を踏まえた学力向上のための取組について、保護者や地域の人たちに対して働きかけを行いましたか



【小学校】



【中学校】



## (9) 学校における教育活動について

学校質問紙調査結果より

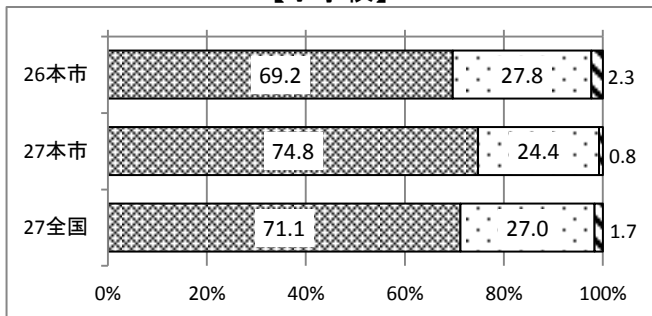
各学校においては、めあてやねらいを明確にした授業改善に努めており、小中学校とも全国平均を上回っているが、発言や活動の時間を確保した授業については、全国平均より低い状態が続いている。また、校長が学校を校内の授業などを見て回る頻度については、全国平均を大きく上回っている状況が続いている。

1

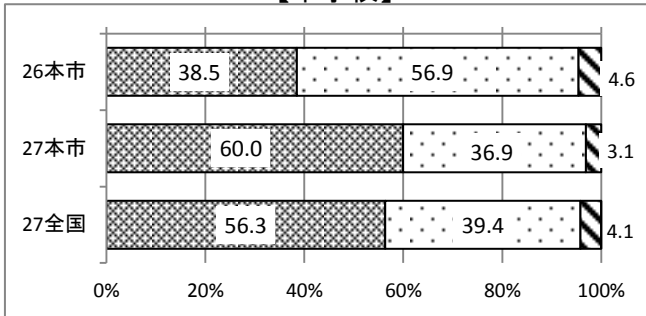
調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、授業の冒頭で目標(めあて・ねらい)を示す活動を計画的に取り入れられましたか

よく行った      どちらかといえば、行った      あまり行っていない      全く行っていない

【小学校】



【中学校】

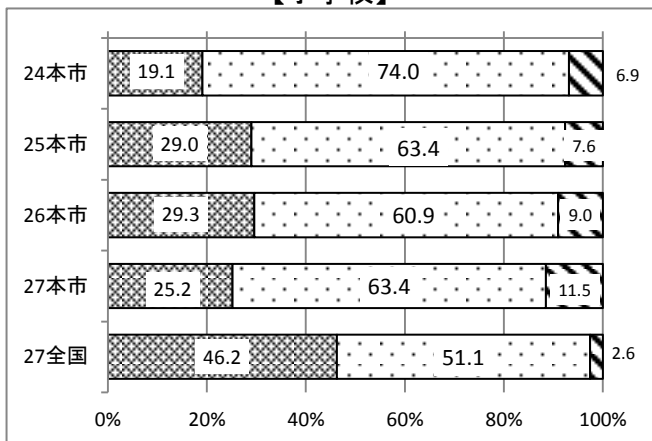


2

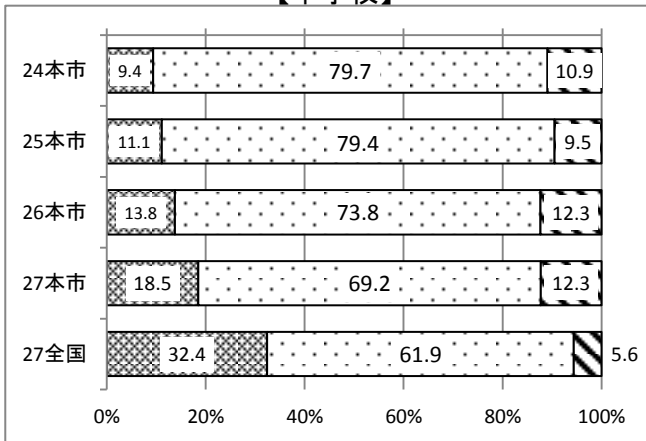
調査対象学年の児童に対して、前年度までに、発言や活動の時間を確保して授業を進めましたか

よく行った      どちらかといえば、行った      あまり行っていない      全く行っていない

【小学校】



【中学校】

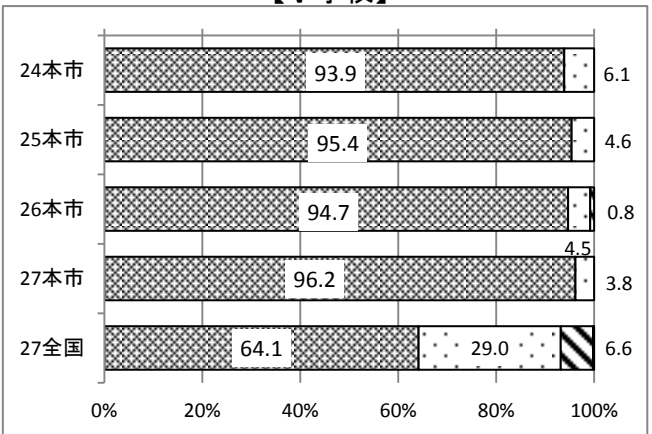


3

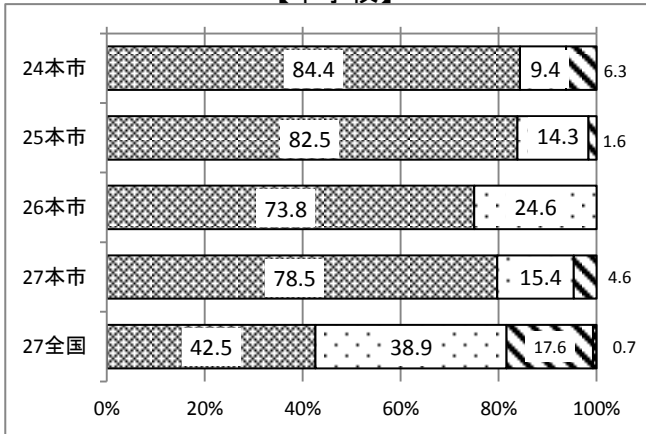
校長は、校内の授業をどの程度見て回っていますか

ほぼ毎日      週に2~3日程度      月に数日程度      ほとんど行っていない

【小学校】



【中学校】



## (10) 各校の効果的な取組事例

H27年度 学力向上に向けたピックアップ校一覧(小規模校10人以下は除く)

【全国平均正答率との差の推移を基準としたもの】〈小学校〉

連続して改善傾向が見られる					特記事項	
		27年度-26年度	26年度-25年度			
1	A小学校	21.3	◎	20.6	◎	○放課後補充学習教室を立ち上げ、取り組んだ。 ○アシストシートやWEB問題、既習問題などを導入で活用した。 ○本校独自の「家庭学習パンフレット」を作成・配付した。
2	B小学校	29.7	◎	13.0	○	○単元や学習のまとめにアシストシートやチャレンジシートを活用した。 ○給食準備時間の10分間を利用して「算数道場」に取り組んだ。 ○発達段階に応じた体系的な家庭学習時間や内容を設定し取り組んだ。
3	C小学校	24.7	◎	15.9	○	○朝自習やドリルタイム(掃除時間後の15分間)を全校一斉に実施した。 ○放課後補充授業等、特設時間を設定し取り組んだ。 ○宿題のスタンダード化を行った(時間、学年別・教科別)。
4	D小学校	23.8	◎	13.3	○	○学習の終わりに必ず感想を書かせ、書くことへの習慣付けを図った。 ○本校の課題について全職員で分析し、取組の方向性を共有した。 ○学年の実態を考慮し「家庭学習のすすめ」を作成し、実施した。
5	E小学校	76.4	◎	9.0		○生活振り返りカードを校長が点検、集約し、担任に返した。 ○家庭学習の在り方について、校長が児童に個別指導を行った。 ○授業の中で書く活動を位置付けた。
昨年度大きく上がりその傾向が続いている						
		27年度-26年度	26年度-25年度		特記事項	
1	F小学校	17.3	○	39.9	◎	○朝自習にアシストシートの答え合わせ、解説、やり直しを行った。 ○全学年で宿題の徹底的チェックを行った。 ○各種プリント等を入れる棚を職員室に設置し、積極的な活用を図った。
2	G小学校	8.7		21.6	◎	○特設時間の取組内容計画表を作成し教職員の意識化を図った。 ○家庭学習の取組を振り返る時間を定期的に設定し取り組んだ。 ○自主学習ノートの紹介を通して、児童の意欲や関心を高めた。

【全国平均正答率との差の推移を基準としたもの】〈中学校〉

連続して改善傾向が見られる					特記事項	
		27年度-26年度	26年度-25年度			
1	H中学校	34.4	◎	7.4		○定期考査前に個に応じた指導時間を設定し、習熟度別の課題を準備し指導した。 ○学期に一度学級で漢字・基礎計算・英単語に取り組み、コンクールを実施した。 ○「チャレンジハンドブック」を活用し各教科担任が家庭学習の仕方を説明した。
2	I中学校	15.2	○	3.7		○板書の工夫を行うとともに、諸行事等で感想文などを書かせた。 ○放課後質問教室など放課後の時間の活用した取り組みを実施した。 ○定期考査前を中心とした自主学習ノートの活用に取り組んだ。
3	J中学校	14.3	○	4.7		○各教科の強化週間を設定し、週末に朝自習テストを実施した。 ○授業研究を行い、授業改善シートを活用して、指導法の検証を全職員で行った。 ○長期休業における宿題の配布、点検、提出の徹底を図った。
4	K中学校	14.6	○	3.5		○「めあて」や「まとめ」を明確にした、授業に取り組んだ。 ○授業での、意見を述べる場、集団づくりを意識した教育活動を設定した。 ○長期休業日、反復ドリルや課題的な内容などを宿題として課した。
昨年度大きく上がりその傾向が続いている						
		27年度-26年度	26年度-25年度		特記事項	
1	L中学校	3.8		13.7	○	○漢字・計算・英単語の実態テストの後、補充学習をし、再度実態テストを行った。 ○校内で統一した板書用「めあてカード」「まとめカード」の作成・活用を図った。 ○保護者説明会等を利用して家庭学習への取組やそのための協力を仰いだ。

※ 全国平均正答率との差を年度ごとに計算し、その値を前年度と比較した数値

※ 全国学テの記号は、前年度調査と比べ、20P以上の改善は◎ 10～19.9P以上の改善は○で表示。

## 2 学力向上の取組（今後の取組事例）

# (1)学力向上構想図

## 学 力

学習意欲  
基礎的・基本的な知識・技能  
思考力・判断力・表現力等

## 学 校

### 校長のリーダーシップ・学校経営

- ・高めあう職員集団作り(同僚性、協働性) 北九州スタンダードカリキュラム
- ・教育課程の編成 適材適所の教員配置
- ・基礎学力の定着を図る補充学習 子どもひまわり学習塾
- ・指導力向上を図る研修 全員研修会・主任研修会
- ・家庭学習の習慣化の取組 家庭学習チャレンジハンドブック
- ・学習規律の統一 生徒指導主事・主任会議
- ・小中一貫連携教育推進事業 小中一貫連携教育推進事業

### 良好な学習環境(いじめ・不登校、生徒指導含む)

スクールソーシャルワーカー・カウンセラー  
教員加配(専任生徒指導主事)  
学校支援ライン 等

### 障害のある児童生徒への対応

特別支援教育コーディネーター  
特別支援教育学習支援員 等

### 教師一人一人の指導力・指導方法

- ・授業改善(ICTの活用など含む) 授業改善ハンドブック ICTモデル事業
- ・指導と評価の一体化 指導と評価ハンドブック マイスター教員
- ・教室環境(教材・教具)
- ・家庭学習など保護者への働きかけ 家庭学習チャレンジハンドブック
- ・校内外の研修への参加 主題研修、学校大好きオンリーワン事業
- ・人権意識に基づく生徒理解 人権教育教材集「新版 いのち」
- ・学級経営力 意欲と使命感

## 地 域

- 子どもへの関心
- 学校への理解・協力

スクールヘルパー

ブックヘルパー

学校支援地域本部

企業による  
小学校応援団

## 家 庭

### 家庭の教育力

- 良好な生活習慣
- ・食生活・生活リズム
- ・メディアへの接触
- 家庭学習の習慣

ケータイ  
夜10時オフ  
運動

ノーテレビ  
ノーゲーム  
読書の日

保護者の高い意識  
学校理解

保護者の  
社会的経済的背景  
(学歴・所得等)

## 教育行政(教育委員会)

- ①良好な環境整備 必要な教職員の配置 ・ハード面(学校施設、エアコン等)や教材(ICT含む)の整備  
・外部人材による支援(子どもひまわり学習塾、スクールソーシャルワーカー・カウンセラー、スクールヘルパー等)
- ②指導主事等による学校経営・指導方法に関する指導助言
- ③研修所(教育センター)の整備
- ④特別支援教育相談センター(就学先決定の相談、保護者との教育相談、学校巡回相談)
- ⑤本市独自の学力調査の実施とその結果に基づく学年・学校間の継続指導
- ⑥全市共通指示事項の徹底

## (2) 北九州市学力状況調査

北九州市学力状況調査とは、児童生徒の学力と学習や生活の実態を調査し、一人一人のデータを蓄積することで、小学校から中学校までの経年変化を把握し、よりきめ細かな指導を行い、学力向上と学校や家庭での学習や生活習慣の改善に資するものである。

学力調査の内容は、全国学力・学習状況調査の問題に準拠したもので、「知識」と「活用」の2側面から学力を捉え、検証していく。

また、小学校5年生、中学校1・2年生で実施することで、全国学力・学習状況調査の小学校6年生、中学校3年生と併せて、小学校5年生から中学校3年生までの個人カルテを作成し、児童生徒一人一人の学力の状況を継続して捉える。

さらに、全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙と同じ質問項目で調査を行い、学習や生活習慣と学力との相関関係についてデータを作成し、経年比較することで、詳細な分析を行い、その分析結果から課題を明らかにし、課題解決のための対策を講じる。

北九州市学力状況調査	
問 題	「知識」と「活用」を取り入れた文科省の示す「確かな学力」に対応する問題。 毎年新しい問題を作成する。
調査問題の利用	調査問題を利用して復習ができ、過去問として同一の問題を複数回にわたって利用できるものである。
本市の課題への対応	各種調査結果から分析された、本市の課題に応じたものである。
経 年 比 較	全国学力・学習状況調査も含め、同一集団、一人一人の経年での変化を比較し、実態を把握するものである。
全国学力・学習状況調査との相互補完的な活用について	全国学力・学習状況調査の内容と関連付ける内容で構成し、教科における、領域や観点などにおいて相互補完でき、同調査を含めて、小学校5年生から中学校3年生までの個人カルテを作成する。
問 題 の 形 式	全国学力・学習状況調査と同様の形式で小学校はA問題については、合冊、B問題については分冊。中学校は、A・Bともに分冊。
実 施 学 年	小学校5年生 中学校1年生、2年生
実 施 教 科	小学校 国語、算数 中学校 国語、数学 児童生徒質問紙
実 施 時 期	1月12日(火)～15日(金) 児童生徒質問についても学力調査と同時に実施
実 施 時 間	小学校A問題1単位時間、B問題それぞれ1単位時間 計3単位時間 中学校A・Bそれぞれ各教科1単位時間 計4単位時間 児童生徒質問紙 15分程度
調査後の対応	児童生徒一人一人の課題に即した事後指導用のプリントを業者が作成し、全児童生徒へ配布。
個 票 ( 生 徒 用 )	全国学力・学習状況調査と同じ形式で、各教科・区分における一人一人の正答率・正答数、教科、領域、観点、問題形式、設問別のデータを本市のデータと比較できるよう明記する。

### (3) 学力向上学校訪問

#### 1 目的

- 平成27年度全国学力・学習状況調査結果から、各学校の成果と課題に応じた取組内容について、管理職・学力向上担当者への聞き取りを行う。
- 授業参観を通して、各学校の「学力向上プラン」の取組や学校の状況を把握する。
- 課題に応じた適切な指導を継続して行い、学力向上のPDCAサイクルの活性化を図り、児童生徒の学力向上と教員の指導力向上に資する。

#### 2 学校訪問の概要およびスケジュール

##### (1) 訪問期間

- ① 第一期訪問 4月中旬～7月上旬
- ② 第二期訪問 9月中旬～12月中旬
- ③ 第三期訪問 2月上旬～3月上旬

##### (2) 訪問時間

- ① 8:30～10:30 (朝自習～1時間目～聞き取り・指導助言)
- ② 13:30～15:30 (昼休み・掃除(特設時間)～5時間目～聞き取り・指導助言)
- ③ 14:00～16:30 (5時間目～聞き取り・指導助言～ひまわり学習塾等)

##### (3) 指導のポイント

- ① 第一期
  - ・ 4月21日の全校学力・学習状況調査実施に向けた具体的な取組
  - ・ 調査後の結果の活用について
- ② 第二期
  - ・ 公表フォーマットの内容(各学校の取組)についての指導
  - ・ 学力向上プランの取組についての聴取と指導
- ③ 第三期
  - ・ 北九州市学力状況調査に向けた取組について
  - ・ 公表フォーマット及び学力向上プランの取組について指導後の状況把握と継続指導
  - ・ 北九州市学力状況調査実施後の取組状況の確認

#### 3 授業参観の観点 <授業改善ハンドブックリーフレット>持参

##### ★ 授業スタイル

- ・ めあての板書があり、子どもがその時間にやることを理解しているか。
- ・ 写真・図、カード等を準備し、子どもが視覚的に理解できる手だてが準備され、構造的な板書になっているか。
- ・ 子どもが自力解決しているときに、机間指導を行い、状況把握や個別指導を行っているか。
- ・ 授業の中に「考えさせる」「書かせる」「発表させる(話し合う)」場があるか。
- ・ 「復習」の授業の場合も、問題を解いた後、個別指導や全体指導をしているか。(させっぱなしにしていないか。後半には課題がある問題を全体指導して再度解かせるなどの指導をしているか。)

##### ★ 児童生徒との関わり

##### ★ 教室環境



#### (4) 授業改善リーフレット

一時間一時間の授業の中に、教育のすべてがある！

「北九州スタンダード  
すべての教師のための授業改善ハンドブック」  
リーフレット版

「わかる授業」づくり **5** つのポイント



- 1 学びの基盤を支える「学習規律」
- 2 板書には、必ず「めあて」、「まとめ」と「振り返り」
- 3 子どもの思考を深める「発問」の工夫
- 4 1時間の中に「話し合う活動」と「書く活動」
- 5 「まとめ(振り返り)」終わりの5分の確保



#### 授業改善点検評価シート(自己評価用)

	授業全般	チェック	ポイント
1	発達の段階に応じた、望ましい学習規律を定着させることができた。		→ 1
2	「めあて(目標)」の提示があり、それに向けた授業展開を行うことができた。		→ 2
3	構造的で分かりやすい板書ができた。		→ 2
4	発問は意図が明確で、様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするなどの工夫をすることができた。		→ 3
5	話し合う活動などの、児童生徒同士の意見交流ができた。		→ 4
6	自分の考えを書く活動を位置付けることができた。		→ 4
7	授業の振り返りの時間を確保し、「まとめ」をすることができた。		→ 5
8	子どもは、教師の説明や友達の発言をよく聞いている。		→ 1
9	机間指導でつまずきやよい考えを発見することができた。		→ 4

日々、自分の学習指導の在り方を、子どもたちの学習の様子を通して自己評価してみましょう。



## ポイント1 学びの基盤を支える「学習規律」

### 1 時間を守る

- ・チャイム席と授業の準備
- ・まず教師が授業の開始と終わりの時間をしっかり守り範を示す

### 2 授業は気持ちのよい挨拶から

- ・はじめと終わりの挨拶はきちんと行う
- ・名前を呼ばれたら、しっかり返事をする

### 3 正しい姿勢で座る

### 4 ルールを守って発言する態度を大切に

- ・話している人を見て聞く
- ・うなずきなど反応を示しながら聞く
- ・話の内容を理解してまとめる練習をする
- ・声の大きさ、話す速さなど、聞く相手のことを考える

### 5 忘れ物を減らす事前指導

継続して指導することが大切。  
ぶれない、中途半端にならないように  
しましょう。



## ポイント2 板書には、必ず「めあて」、「まとめ」と「振り返り」

### <板書のポイント>

#### 1 内容が構造的に整理されている。

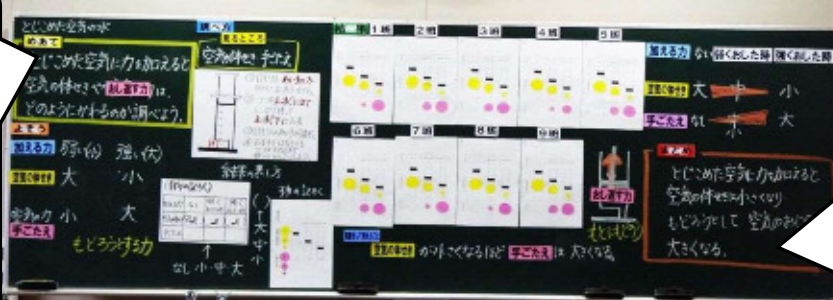
- ・単元(題材)名、**めあて**、**まとめ**が示されている。
- ・教科で必要な要素を踏まえている。

#### 2 授業中の子どもの考えが関連付けられている。

- ・矢印・囲み・観点等

#### 3 適切な文字量・文字の大きさ、色チョークの効果的な活用。

せ  
る  
め  
あ  
て  
授  
業  
の  
見  
通  
し  
を  
も  
た  
せ  
る



ま  
と  
め  
や  
振  
り  
返  
り  
は、  
子  
ど  
も  
の  
言  
葉  
で。  
め  
あ  
て  
と  
対  
応  
し  
た  
ま  
と  
め  
に  
な  
っ  
て  
い  
る  
か。

## ポイント3 子どもの思考を深める「発問」の工夫

### ★学習を深める発問の条件★

- 1 ねらいに向かうもの
- 2 学習内容に即し、深く追究させ、発展させるもの
- 3 学習内容の確かな習得に向かわせるもの
- 4 子どもの思考や心情を深めさせたり、発展させたりするもの。



### よい発問とは、

- ・明瞭簡潔なわかりやすい言葉
- ・内容に応じて間や声の大小、調子など話し方に変化をつける
- ・ずれを生かしたり、新しい見方を示したりする
- ・子どもの考えの筋道に応じて行う
- ・一問一答式の発問でなく、様々な考えを引き出し、思考を深めさせる発問



## ポイント4 1時間の中に「話し合う活動」と「書く活動」を

1時間の授業の中に「主体的に考え、話し合い、書く」というサイクルを定着させる。



ペア(2人)で、意見を交わしながら理解を深める。



グループ(3人以上)で交流しながら課題解決のための考えを導き出す。



学級全体で、様々な考えを出し合って理解を深める。



早く正確に。自分の考えを自分の言葉で書く。

## ポイント5 「まとめ(振り返り)」終わりの5分の確保

学習を振り返らせ、子ども自身に自己評価をさせる

(例)1時間の「振り返り」をノートに書かせる

- ・「自分の言葉で書く」
- ・「何字以内で書く」
- ・「〇〇の言葉を使って書く」等



その時間の頑張りを称賛する。



子どもの学習状況(つまずき)の確認をする。



わかったこと、解決したこと、更なる問題として残されていることを子どもの言葉で話し合わせる。

学習意欲を高める学習展開

日頃の授業の積み重ねが大切です。

**起** 授業開始5分が勝負！「導入」を磨く！



**承** 子どもが全力を傾けて取り組む学習活動を！



**転** 子どもの思考を深める発問に挑戦！



**結** 終わりの5分も勝負！子どもの言葉で授業をまとめる



# 平成27年度 子どもひまわり学習塾事業

## 【事業概要】

児童生徒に主体的な学習の習慣や、基礎的・基本的な学力の確実な定着を図るため、小学校3年生から6年生及び中学校3年生を対象に、放課後等に基礎的・基本的内容の補充学習を行う。

- 実施日 週2回、1回あたり1時間程度 ※学校の希望によっては、土曜日の実施も可能。  
小学校：6月上旬～3月中旬 全60回程度（長期休業期間除く）  
中学校：7月下旬～3月中旬 全60回程度（拠点型は、全30回学習塾の運営等を民間事業者へ委託）
- 実施場所 各学校内（余裕教室等）及び公共施設
- 対象校 平成27年度 小学校70校、中学校62校（拠点型5箇所含む）  
平成26年度 小学校31校、中学校11校
- 実施内容 小学校は国語科・算数、中学校は数学科、英語科の基礎的・基本的内容の補充学習
- 実施方法 小学校は6人につき1人、中学校は5人につき1人の割合で学習指導員がつき、個別指導による児童生徒の自学自習の学習支援を行う。  
※学習指導員（大学生・地域住民・教員OB等）・・・約400人
- 児童生徒数 小学生 約2,100名、中学生 約420名（拠点型含む）
- 予算額 平成27年度 133,000千円（平成26年度 67,000千円）

### 【拠点型5箇所】

生涯学習総合センター、  
北九州市立大北方キャンパス、  
戸畑生涯学習センター、  
八幡西生涯学習センター、  
九州女子大学

